

「(仮称)太田市外三町広域斎場整備事業」の構成町である太田市・千代田町、大泉町、邑楽町で同期間・同内容の意見公募を行った結果、太田市・大泉町の住民から4件のご意見が提出されました。

番号	質問	回答
1	<p>建設地は、大泉町外二町斎場及びその隣接地とするとあるが太田は千代田町、大泉町、邑楽町と比較して人口が一番多いし経済的にも中心である。やはり太田市内で適地を見つけるべきでは。斎場は人生最後の式典会場としてきわめて重要な施設である。太田市が他市と比較して一番劣っている施設であるという事はかなりの人が思っていると思う。せめて桐生斎場にはまけない施設にしてもらいたい。桐生と比較して東部では太田市の方が人口をはじめ発展性かなりうまわっていると思うので、それにふさわしいものを建設すべき。お金がかかっても価値あるものだから納得すると思います。検討しなおすべきです</p>	<p>・基本計画の中で建設候補地について、①太田市斎場、②大泉町外二町斎場及びその隣接地、③新たな用地、3つの候補で検討した内容は、以下の通りです。</p> <p>①太田市斎場の敷地内での建設について、市街地に立地し利便性に優れるが、都市計画決定を受けておらず、周囲に住宅が多いことから、都市計画決定にむけてのハードルは高い。また、広域斎場を整備するには手狭で、隣接した勤労会館の解体など建設用地確保が必要になるほか、既存施設を運営しながら建築工事をしなければならず、市街化された敷地の拡張が難しいこともあり、スムーズな建設は難しく、工期が長くなる。</p> <p>②大泉町外二町斎場及びその隣接地は、やや利便性に劣るものの、都市計画決定を受けており、隣接地への拡張が可能であり、都市計画決定の変更手続きが必要となるが、敷地に余裕があるため、工事が行いやすい。</p> <p>③新たな用地の選定及び地元の合意形成には、多くの時間と労力が必要であり、現在の施設の老朽化を考慮すると、早い時期での整備が必要とされる現状では、現実的でない。</p> <p>以上の理由により、建設地は大泉町外二町斎場及びその隣接地としました。</p> <p>・新斎場の施設の内容については、今後事業を進めていく中でより良い施設ができるように努めて参ります。</p>
2	<p>・供用開始の期間がわからない。何年間の供用を想定しているのか？</p>	<p>・所得税法上の減価償却資産における斎場の耐用年数については、明記しておりませんが、鉄筋コンクリート造の耐用年数は50年としております。新斎場については、設計が未着手のため、施設の構造等も含め詳細が決定しておりませんが、必要に応じて修繕や大規模改修等を行うことで、50年程度の使用にも耐えるものを現時点では想定しております。</p>
3	<p>・ライフサイクルコストを示していただきたい。</p>	<p>・整備基本計画(素案)では、主に建設地など施設の配置計画についての検討を行いました。建物の企画・設計、建設、運用・修繕を経て、建築物としての役割を終えるまでにかかるすべての経費である「ライフサイクルコスト」に関しては、設計が未着手のため、施設の詳細が決定していないこと、また、大規模改修のコストが葬送行為の変化等により予測がしにくいことなどから、現段階では算出することが困難であります。今後、設計を検討する際には、「ライフサイクルコスト」を意識し進めてまいります。</p>
4	<p>・ピーク期を想定した施設整備となっているが、ピーク期以外の施設供用期間の方が長いと想定する。ピーク期前、ピーク期後の施設運営をどの様に考えているのか示していただきたい。</p>	<p>・火葬炉の回転数は、1日当たり一基2回転程度を想定しますが、死亡者数のピーク期においては、2.5回転を想定し、過剰な炉数とならないよう規模算定を行っております。現在、専門機関にて公表している死亡者数の将来推計値は、令和27年までとなりますが、その後も死亡者数の減少幅は当面の間小さいと考えられ、ピークは一定期間続くものと推測されます。将来、特に大規模改修を検討する際には、死亡者数の推移や葬送行為の変化等に対応するなど適正な施設運営を図ってまいります。</p>